

瀬戸石ダム問題報告

2023年11月4日

土森 武友

球磨川流域と河川横断構造物



2020.7.4豪雨災害当日の動画

①ダム上流球磨村伊高瀬地区



②ダム下流八代市坂本町瀬戸石地区



瀬戸石ダム



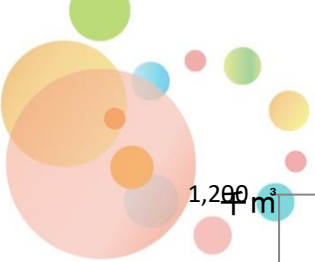


瀬戸石ダムの緒元

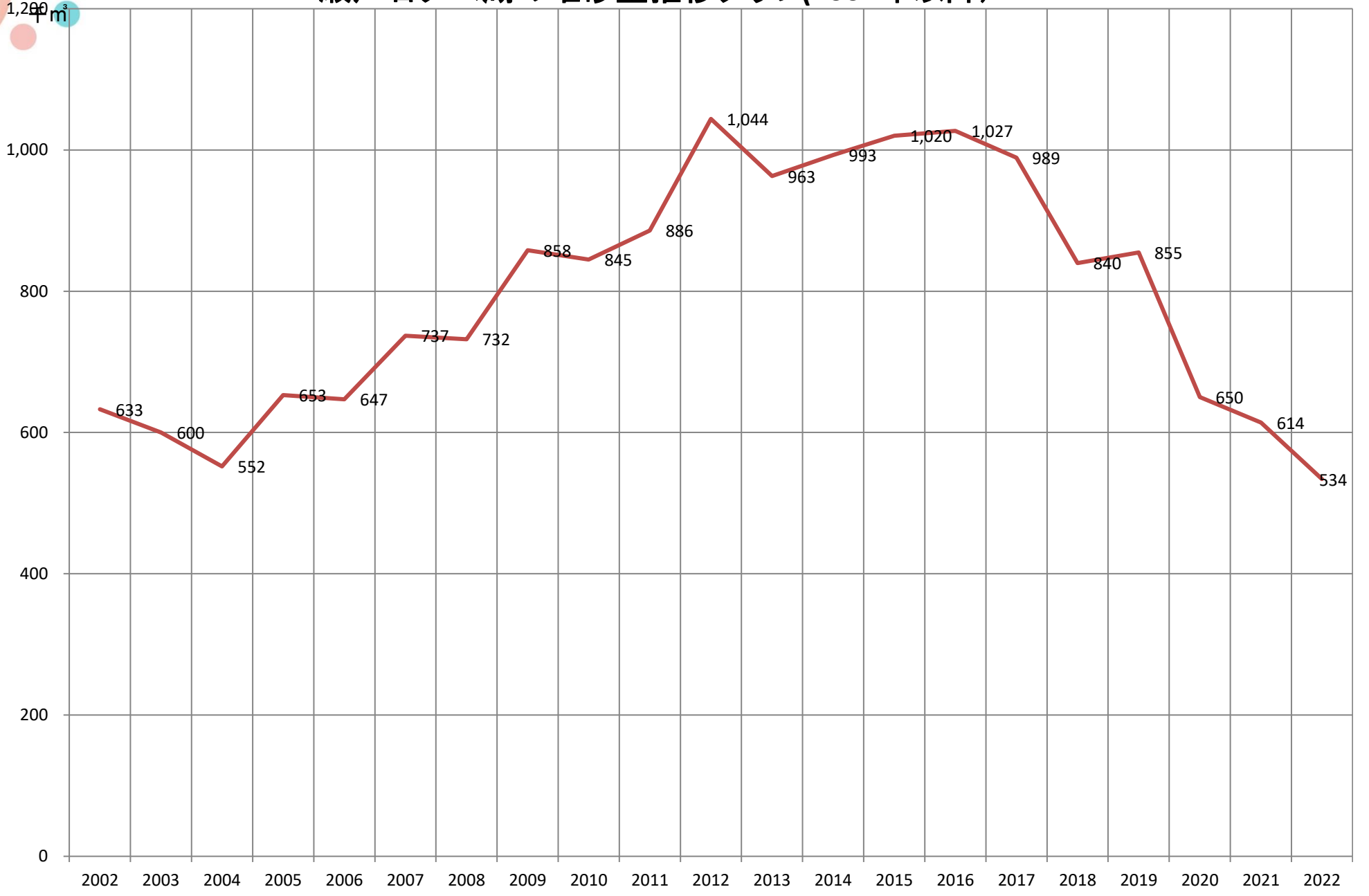
項目	内容
所在地	球磨郡球磨村神瀬
型式	重力式コンクリートダム
貯水容量	9,930,000m ³
堤高	26.5m
完成年	1958年
目的	発電
発電量	20,000Kw
所有者	電源開発株式会社(J-POWER)

1. 瀬戸石ダムがもたらす堆砂問題





瀬戸石ダム湖の堆砂量推移グラフ(2002年以降)






ダムの上下流の被害の違いは？



水の勢い、流速の違いが生じる



上げられたゲ
ートも流れを阻
害した

ずれた管理橋



凄まじい破壊力で壊された瀬戸石ダム下流



瀬戸石ダム下流の肥薩線



まっすぐな線路が殆どない



下流の家屋内の被災状況



家具は散乱、泥や流木に埋もれている



瀬戸石駅で何が起きたか？

(水害発生前のJR瀬戸石駅周辺、下流から撮影)



瀬戸石駅で何が起きたか？（上流から撮影）

駅舎

REBORN

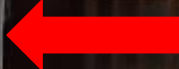
2階建て

建物は跡形もなく
土台が深くえぐられていた



ダム上流の家屋内の被災状況

水位痕跡



多武除公民館

ダムの上流側



多武除集落



ダムの影響を受けた上流の集落





令和2年7月3日からの大雨による浸水推定図

球磨川水系球磨川3



瀬戸石ダムの上下流は
被害の状態が全く違う

ダム上流: 最大約
7mの水位上昇。
ダム湖に長時間
浸ること、土砂
が堆積する

この地図は、国土地理院が7月4日15時までに収集したSNS画像、国土交通省災害用ヘリコプターが7月4日15時頃に撮影した画像及び標高データを用いて、浸水範囲における水深を算出して深さを濃淡で表現した地図です。時点情報のため、最大浸水範囲を示したものではありません。実際に浸水のあった範囲でも把握できていない部分、浸水していない範囲でも浸水範囲として表示されている部分があります。

2020年7月4日20時作成



7月3日からの大雨による

球磨川2



ダム下流: ゲート
全開で水量・流速
が一気に増し、建
物を跡形もなく押し
流す

この地図は、国土地理院が7月4日15時までに収集したSNS画像、国土交通省災害用ヘリコプターが7月4日15時頃に撮影した画像及び標高データを用いて、浸水範囲における水深を算出して深さを濃淡で表現した地図です。時点情報のため、最大浸水範囲を示したものではありません。実際に浸水のあった範囲でも把握できていない部分、浸水していない範囲でも浸水範囲として表示されている部分があります。

2020年7月4日20時作成





瀬戸石ダムが被害を拡大した

No	要因	内容
1	ダムの構造	上流側は貯水によって水位が上昇する
2	土砂堆積	住民の証言ではダムができる前に比べて4メートルから10メートル近く水面が上昇。研究者の調べでも、5メートル以上上昇
3	ダム放流	ダム湖にたまった水の圧力で、ダムの下流にはダムから激しい水の流れが押し寄せてくる



瀬戸石ダムを撤去する会の調査結果

2020年7月豪雨災害時で瀬戸石ダムが無ければダム上流側で最大で約6.8メートルの水位低下

→住民の証言とも一致。瀬戸石ダム上下流の被害はダムが原因。

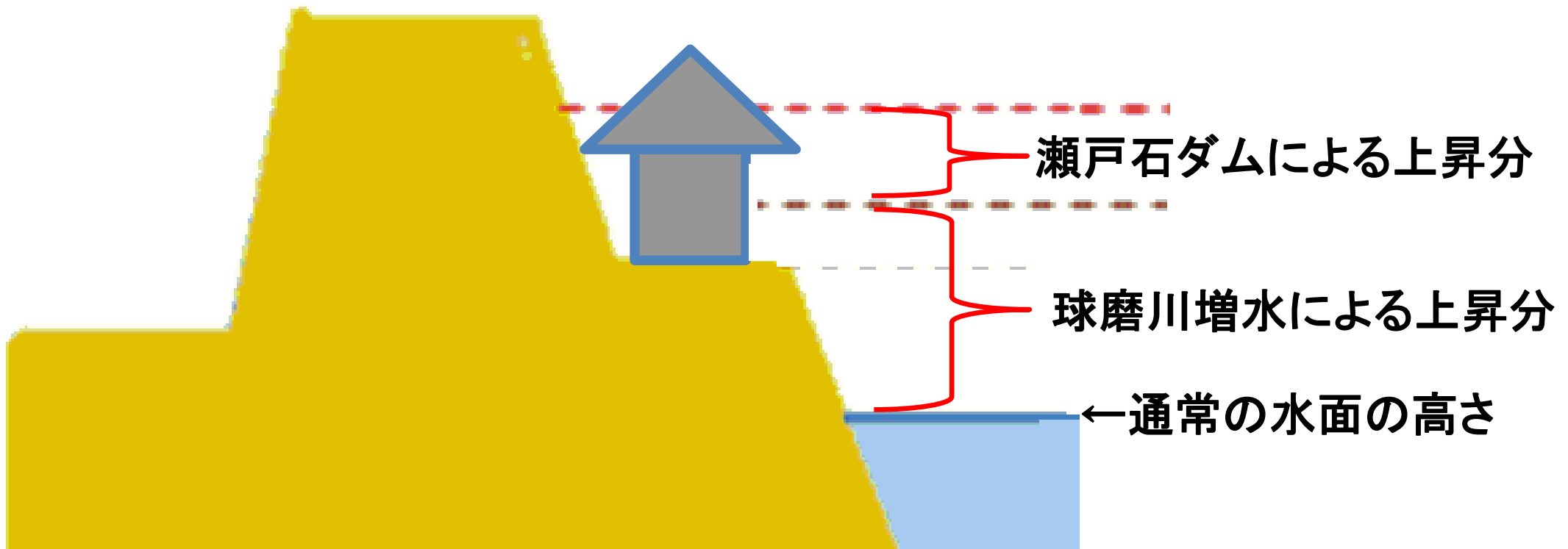
もし瀬戸石ダムがなかったら



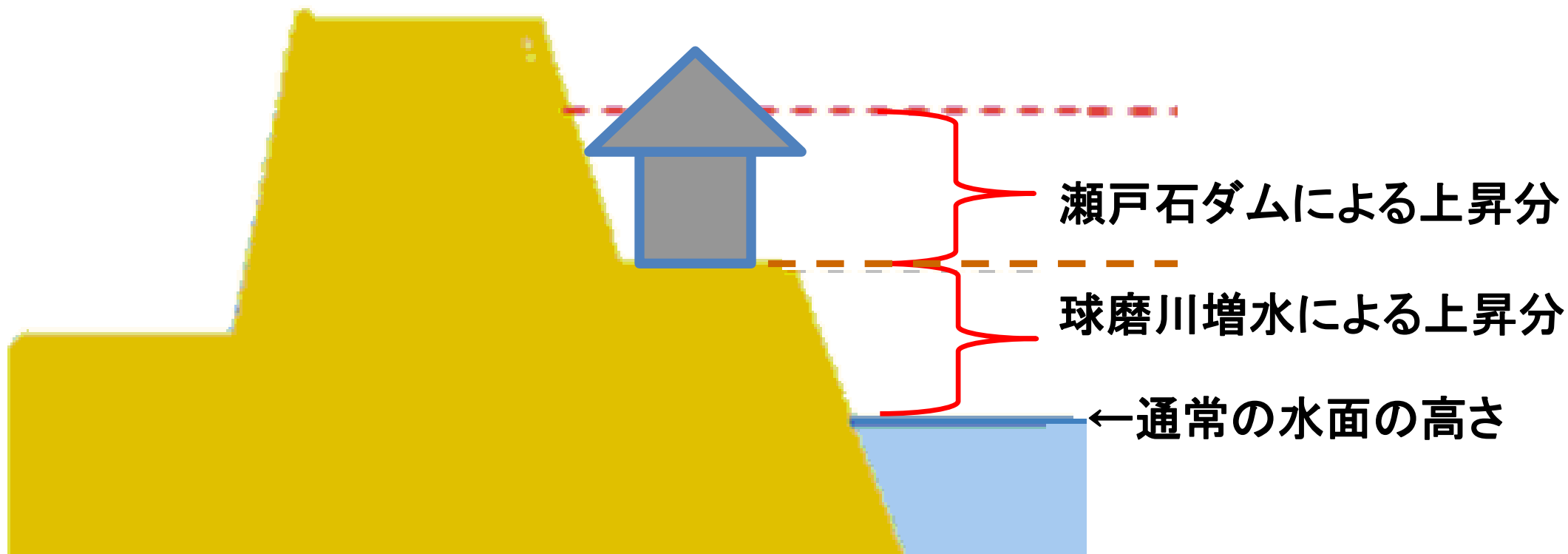
葦北町・吉尾地区 高野旅館



当初のイメージ: 瀬戸石ダムが被害を 拡大した



現在のイメージ：被害自体は瀬戸石ダム によるものでは？（全地点で調査必要）





電源開発の主張

「瀬戸石ダムによる水位上昇はなかった。ゲートを全開して『自然河川状態』になった」

国交省

電源開発の言い分を認め、被害がダムによるものとは全く認めようとはしない。ダムの運用にも問題はなかった。



電源開発の豪雨災害以降の住民に対する態度①

- ・全く住民の声を聞こうとしない

(「HPで情報発信している」)

- ・「警察を呼ぶ」

(2023.2福岡事務所訪問時)

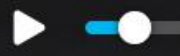
→不誠実極まりない。私たちの働きかけによって、熊本県からの指導を受け、やっと交渉実現へ(11月7日予定)



電源開発
受付 →
←
日本生命保険相互会社
九州代理店部
福岡代理店営業部
博多代理店営業部
博多中央代理店営業支所



2023.4.12.電源開発福岡岡事務所






電源開発の豪雨災害以降の住民に対する態度・姿勢②

2020年の豪雨災害以前はダム湖周辺地区の浸水被害にあった住民には被害の一部を補償したり住宅かさ上げ費用の負担をしていたが、今回は全くなし→「過去の水害を遥かに上回り、自然災害によるもの」(補償は考えていないらしい)

電源開発の豪雨災害以降の住民に対する態度・姿勢③ 警報遅れの問題

放流量(m ³ /s)	放流時刻	アナウンス時刻(開始～終了)	放流時刻とアナウンス開始時刻との時間差
3500	3:15頃	4:39～5:07	約84分
4000	3:25頃	5:07～5:34	約102分
4500	3:40頃	6:03～中断	約143分
5000	3:50頃	アナウンスを省略	
5500	4:15頃	6:08～6:33	約113分
6000	4:30頃	動作せず	



ダムの放流量の下流域への連絡が最大2時間以上、大幅に遅れた。下流域の住民の避難の遅れにつながり、住民の命を危険にさらす重大な問題。電源開発は連絡が遅れたことを公表してないし、謝罪もない。アナウンス自体、豪雨災害時間聞こえない、あるいは警報局の水没という問題もあった。




不誠実極まりない態度。住民を馬鹿にしている。このような姿勢・態度を改めさせるには、住民の力が必要。



皆さんへの訴え

仮に川辺川ダムを中止したとしても球磨川中流域下流域住民は、瀬戸石ダムがある限り、安心して暮らすことは出来ない。

→川辺川ダム中止だけでは不十分。流域住民の総力を結集して瀬戸石ダム撤去の実現を
!



川辺川ダム中止・瀬戸石ダム撤去を勝ち取り、清流・急流のある安全安心な暮らしを未来に手渡そう！

END